

平成10年度 (1998年度)

1. シンポジウム

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成10年 7月3日(金) 参加者 102名	『感染症研究の現状と展望』 — 演題 — ・腸管出血性大腸菌の病原性 ・赤痢菌の上皮細胞感染と細胞高次機能 ・細胞内寄生菌のエスケープ機構と宿主免疫応答 ・粘膜細胞間イントラネットを応用したワクチン ・腸管感染症の新しいワクチンの開発 ・ポリオウイルス感染を決定する生体機能 ・センダイウイルス (HVJ) の遺伝子操作系の確立と展開 ・プリオン病の分子病態	国立国際医療センター研究所 所長 竹田 美文 — 講師 — 大阪大学微生物病研究所 教授 本田 武司 東京大学医科学研究所 教授 笹川 千尋 京都大学大学院医学研究科 教授 光山 正雄 大阪大学微生物病研究所 教授 清野 宏 国立国際医療センター研究所部長 山本 達男 東京大学医科学研究所 教授 野本 明男 東京大学医科学研究所 教授 永井 美之 東北大学大学院医学研究科 教授 北本 哲之

2. セミナー

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成10年 11月13日 (金) 参加者 149名	ブレインサイエンスシリーズ 第11回 『脳虚血に勝つ分子生物学的ストラテジー』 — 演題 — ・脳虚血とセカンドメッセンジャー ・脳虚血へのグリア・ニューロン系の細胞分子応答 ・低酸素による細胞のストレス応答の解明とその制御 ・脳の虚血ストレス応答 — 遺伝子から行動まで — ・軽度脳虚血とアポトーシス ・虚血脳に見られる炎症、免疫反応とその意義	大阪大学医学部 教授 遠山 正彌 大阪大学医学部 助教授 小川 智 — 講師 — 慶應義塾大学医学部 教授 福内 靖男 北海道大学薬学部 教授 野村 靖幸 大阪大学医学部 助教授 小川 智 兵庫医科大学 講師 松山 知弘 名古屋市立大学医学部 教授 山田 和雄 長生会 脳機能検診センター 理事長 小暮 久也
12月1日 (火) 参加者 118名	『糖尿病性合併症の分子機構とその治療戦略 — beyond glucose —』 — 演題 — ・AGEとその受容体 ・酸化ストレス — 脂質過酸化物の意義 ・神経障害の発症メカニズムとそれへの対応 ・糖尿病性腎症の発症機構とその治療戦略 ・糖尿病網膜症の発症機序と治療	滋賀医科大学医学部 教授 吉川 隆一 — 講師 — 金沢大学医学部 教授 山本 博 名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 大澤 俊彦 名古屋大学医学部 教授 堀田 饒 滋賀医科大学医学部 講師 羽田 勝計 九州大学医学部 助教授 梅田 文夫
平成11年 1月29日 (火) 参加者 138名	『21世紀に向けた Drug Delivery System の現状と展望』 — 演題 — ・細胞質内 Delivery による薬物治療戦略— 遺伝子治療、ワクチン開発を例として— ・遺伝子医薬品の体内動態と細胞特異的ターゲティング ・トランスポーターを利用した肝、脳への選択的デリバリー戦略 ・薬物トランスポーター群の分子認識・輸送機構を利用したドラッグデリバリー戦略 ・固型癌のターゲティングと癌血管の透過性：癌化学療法におけるパラダイムシフト ・実用化に向けての今後の放出制御システムと標的化システムの提案	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 京都大学大学院薬学研究科 教授 橋田 充 東京大学大学院薬学系研究科教授 杉山 雄一 金沢大学薬学部 教授 辻 彰 熊本大学医学部 教授 前田 浩 武田薬品工業(株)DDS研究所 小川 泰亮

<p>2月19日 (金) 参加者 73名</p>	<p>『動物の体造り ー分子発生学が覗くカンブリアの動物誕生劇ー』 ー 演題 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラナリアにみる体造りの基本</li> <li>・はばたく虫たちー昆虫の付属肢の起源</li> <li>・無脊椎動物が脊椎動物になったとき</li> <li>・左右非対称性の獲得</li> <li>・背腹軸の形成と神経誘導</li> <li>・脳の部域化のグラウンドプラン</li> </ul>	<p>熊本大学医学部 教授 相澤 慎一 ー 講師 ー 姫路工業大学理学部生命科学科 助教授 阿形 清和 国立遺伝学研究所系統生物研究センター 助教授 林 茂生 京都大学大学院理学研究科附属 瀬戸臨海実験所 助手 和田 洋 徳島大学工学部生物工学科 教授 野地 澄晴 京都大学再生医科学研究所 教授 笹井 芳樹 東京大学大学院医学系研究科 神経生物学教室 講師 嶋村 健児</p>
--------------------------------------	--	---

### 3. 技術講習会

実施月日	テーマ・演題	協賛企業 & コーディネータ・(講師)
<p>第15回 平成10年 6月19日 参加者 24名</p>	<p>『ヒト染色体解析とFISH法』 ー 演題 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FISH法とその応用によるがん研究の新たな展開</li> <li>・キット品を用いたFISHおよびM-FISH(multi-target FISH)の技術解説</li> <li>・CGH及び現在開発中のGCGH (geno- sensor based CGH)の技術解説</li> <li>・蛍光顕微鏡と画像解析装置QUIPSXLを用いてのデモンストレーション実施</li> </ul>	<p>ー 後援企業 ー 藤沢薬品工業(株) 医療関連事業部 ー 講師 ー 東京医科歯科大学難治疾患研究所 教授 稲沢 譲治 藤沢薬品工業株式会社 前川 雅彦 新宅 香織</p>
<p>第16回 10月6日 参加者 18名</p>	<p>『生体画像の取得と応用Ⅱ』 ー 演題 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体分子の1分子イメージング・ナノ操作ー分子機械の動作原理ー</li> <li>・顕微鏡による生体観察の基礎と応用</li> <li>・生体の高速蛍光イメージング装置</li> </ul>	<p>ー コーディネータ ー 大阪大学医学部 教授 田村 進一 ー 後援企業 ー オリンパス光学工業(株) ー 講師 ー 大阪大学医学部 教授 柳田 敏雄 オリンパス光学工業株式会社 山岸 明 阿部 勝行 オリンパス販売株式会社 宇都宮弘美</p>
<p>第17回 11月26日 (10:00~17:00) 参加者 48名</p>	<p>『最新のGFPテクノロジー』 ーライフサイエンス分野への発展と応用ー ー 演題 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Properties and Applications of EGFP, Color Variants of EGFP, and Unstable Derivatives</li> <li>・緑色蛍光蛋白質GFPとその生物学的分野への応用</li> <li>・最先端のレーザー走査顕微鏡2光子励起、リアルタイム観察、GFPへの応用</li> <li>・ゼブラフィッシュにおけるGFPの発現</li> </ul>	<p>ー 協賛企業 ー クロンテックジャパン(株) オリンパス販売株式会社 ー 講師 ー CLONTECH Laboratories, Inc., P.D. Whaley 大阪大学遺伝情報実験施設 教授 岡部 勝 大阪大学大学院工学研究科 応用物理学 助教授 中村 収 大阪大学大学院医学系研究科 第3解剖 助手 弓場 俊輔</p>



第32回 平成11年 1月25日 参加者 44名	『神経疾患に対する遺伝子導入の試み』 — 演題 — ・グリオーマ細胞への遺伝子導入とその応用 ・変異型アデノウイルスを用いた脳腫瘍に 対する遺伝子治療 ・ミクログリアを用いた脳に選択的な遺伝子 導入法	大阪市立大学医学部第一解剖 高木 宏 — 講師 — 名古屋大学医学部脳神経外科遺伝子治療 水野 正明 (財)癌研究所癌化学療法センター 濱田 洋文 さきがけ研究21(藤田保健衛生大学 総医研) 澤田 誠
第33回 2月26日 参加者 51名	『神経障害と知覚ニューロン』 — 演題 — ・ラットニューロパチックペインモデルの 一次知覚神経細胞における遺伝子発現変化 ・ニューロパチックペインモデルにおける 後索核系の関与について ・In vivoパッチクランプ法による脊髄感覚情 報処理の解析	兵庫医科大学医学部第二解剖 野口 光一 — 講師 — 兵庫医科大学第二解剖 福岡 哲男 野口 光一 佐賀医科大学生理学 吉村 恵 古江 秀昌

(2) 21世紀の薬箱

実施月日	テーマ・演題	世話人・講師
第23回 平成10年 5月26日 参加者62名	新しい治療戦略(8) 『ワクチン開発の最前線』 — 演題 — ・抗HIVワクチン開発戦略とその評価 ・ワクチン用アジュバントへのDDS	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 国立感染症研究所エイズ研究センター 本多 三男 真弓 忠範
第24回 7月7日 参加者17名	— テーマ・演題 — 『活性型Srcチロシンキナーゼを認識 するモノクローナル抗体の開発と応用』	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 演題 — カリフォルニア大学サンフランシスコ校 Lung Biology Center 研究員 川勝一左哲
第25回 9月29日 参加者45名	『複数のターゲット分子をもつ薬』 — 演題 — ・セロトニン、ドーパミン受容体アンタゴニ スト(SDA)について ・頻尿・尿失禁治療薬について ・アンギオテンシン受容体拮抗薬について	大阪大学大学院薬学研究科 教授 松田 敏夫 — 演題 — 住友製薬(株)総合研究所 大野 行弘 大日本製薬(株)創薬研究所 志水 勇夫 武田薬品工業(株)創薬研究本部 稲田 義行
第26回 10月16日 参加者46名	新しい治療戦略(9) 『吸収改善を目指したDDSの開発と21 世紀の展望』 — 演題 — ・薬物の吸収改善法:特に直腸吸収及び経皮 吸収について ・医薬品吸収とその製剤設計上の問題点	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 演題 — 摂南大学薬学部 矢田 登 昭和薬科大学薬学部 松本 光雄
第27回 12月8日 参加者16名	『医薬品・食品・生薬の現状と課題そして 展望』 — 演題 — ・医薬品の品質保証とGMP ・生薬を中心とした医薬品の品質評価法	大阪大学大学院 薬学研究科 教授 那須 正夫 — 演題 — 大坂府保健衛生部 薬務課品質指導 係長 柳原 義彦 大阪府立公衆衛生研究所 薬事指導部 主任研究員 山崎 勝弘
第28回 平成11年 2月22日 参加者40名	『中枢神経系細胞傷害保護のターゲット分子』 — 演題 — ・グリア細胞障害のシグナルカスケード	大阪大学大学院 薬学研究科 教授 松田 敏夫 — 演題 — 神戸学院大学薬学部 田熊 一敏

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NOの細胞毒性と細胞接着分子</li> <li>・グリア細胞の病態と細胞骨格系</li> </ul>	大坂大学歯学部 大阪大学大学院薬学研究科	前田 定秋 小山 豊
--	--	-------------------------	---------------

5. 千里ライフサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄氏

回数	テーマ・演題	座長・講師
第22回 平成10年 8月22日 参加者 165名	『ライフスタイルと循環器病』 - 演題 - ・開催に当たって ・高血圧の予防はまず自らの手で ・老化、遺伝性体質も生活習慣でしのぐ 未病対策 ・動脈硬化予防の食生活	尾前 照雄、岡田 善雄、田口 数雄 - 講師 - 岡田 善雄 九州大学健康科学センター 教授 川崎 晃一 国立循環器病センター内科 医長 都島 基夫 東海大学名誉 教授 五島雄一郎
第23回 12月5日 参加者 99名	『がんを識る』 - 演題 - ・開催に当たって ・アポトーシス（自死）とがん ・ライフスタイルとがん予防 ・血液のがん-助け合いと上手な負け方-	岡田 善雄、田口 数雄 - 講師 - 岡田 善雄 東京理科大学薬学部 教授 田沼 清一 大阪成人病センター 顧問 森本 兼曩 大阪大学医学部 教授 正岡 徹
第24回 平成11年 3月20日 参加者 155名	『アレルギーとの付き合い』 - 演題 - ・開催に当たって ・免疫のしくみとアレルギー ・アトピー性皮膚炎 -乳児から成人について- ・花粉症とその上手な対処法	尾前 照雄、岡田 善雄、田口 数雄 - 講師 - 岡田 善雄 大阪大学 総長 岸本 忠三 関西労災病院皮膚科 部長 足立 準 医療法人財団 神尾記念病院 顧問 齋藤 洋三

6. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	テーマ	講師名(所属)
69回 平成10年 4月22日 参加者25名	『熱帯魚はどこへいくの』	国立民族学博物館 教授 秋道 智弥
70回 5月21日 参加者40名	『生と死を支える』～ホスピスの現場か～	大阪大学人間科学部 教授 淀川キリスト教病院 名誉部長 柏木 哲夫
71回 6月18日 参加者41名	『睡眠を科学する』	大阪バイオサイエンス研究所 所長 早石 修
72回 7月31日 参加者35名	『<臨床哲学>という試み～』哲学と社会 のつながりについて考える～	大阪大学文学部 教授 鷺田 清一
73回 8月19日 参加者23名	『落日に人間の根源さぐる』	大阪女子大学 学長 中西 進
74回 9月25日 参加者38名	『地震の前、なぜ動物は騒ぐのか』-電磁気 地震学の誕生 [KRFとのジョイントフォーラム]	大阪大学大学院理学研究科 教授 池谷 元伺
75回 10月30日 参加者38名	『がん対策はどうなっているのか』 <現状と未来>	大阪府立成人病センター 総長 豊島久真男
76回 11月19日 参加者29名	『わが国における臓器移植は今後どうなるか』	大阪大学医学部第1外科 教授 松田 暉

77回 12月9日 参加者26名	『内分泌攪乱物質のリスクの評定と その低減への努力』	国際純正応用化学連合(IUPAC) 「化学と環境」部会長 宮本 純之
78回 平成11年 1月22日 参加者29名	『ウイスキー』その伝統・技(わざ)・味わい	サントリー(株)社友元山崎蒸留所 工場長 嶋谷 幸雄
79回 2月24日 参加者29名	『能と狂言の違いについて』	羽衣学園短大教授 京都市立芸大・大阪芸大講師 能楽師(大蔵流狂言方) 安東 伸元
80回 3月26日 参加者23名	『大地母神の時代』	国際日本文化研究センター 教授 安田 喜憲

7. 千里ネイチャー・カレッジ

回数	開催日	テーマ名	参加者	
			生徒	関係者
第1回	7月12日(日)	「オリエンテーション」と「サルの観察(1)」	37名	23名
第2回	8月1日(土)	「植物・昆虫・野鳥の観察」	37名	24名
第3回	10月24日 (土)	「サルの観察(2)」と「修了式」*	38名	24名